平成１９年６月７日

各　位

会 社 名　巴 工 業 株 式 会 社
代表者名　代表取締役社長　本　間　　實
（コード番号　6309　東証第一部）
問合せ先　取締役経理部長　苅 田 鉱 一
ＴＥＬ　03-5435-6512

平成 19 年 10 月期中間期および通期業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 18 年 12 月 11 日の平成 18 年 10 月期決算発表および平成 19 年 3 月 1 日の「平成 19 年 10 月期中間期業績予想の修正に関するお知らせ」において公表いたしました平成 19 年 10 月期（平成 18 年 11 月 1 日～平成 19 年 10 月 31 日）中間期および通期業績予想（連結・個別）を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

１．中間業績予想の修正

(1) 平成 19 年 10 月期中間期（平成 18 年 11 月 1 日～平成 19 年 4 月 30 日）連結業績予想

（単位：百万円）

	売上高	経常利益	中間純利益
前回発表予想（A）	23,650	1,030	540
今回修正予想（B）	24,127	1,325	673
増減額（B）－（A）	477	295	133
増減率（%）	2.0	28.7	24.8
（ご参考） 前中間期実績（C）	25,095	1,614	987
増減額（B）－（C）	△968	△289	△313
増減率（%）	△3.9	△17.9	△31.8

(2) 平成 19 年 10 月期中間期（平成 18 年 11 月 1 日～平成 19 年 4 月 30 日）個別業績予想

（単位：百万円）

	売上高	経常利益	中間純利益
前回発表予想（A）	21,500	960	510
今回修正予想（B）	21,913	1,154	583
増減額（B）－（A）	413	194	73
増減率（%）	1.9	20.2	14.3
（ご参考） 前中間期実績（C）	21,631	1,304	787
増減額（B）－（C）	281	△150	△204
増減率（%）	1.3	△11.5	△25.9

(3)修正の理由

平成19年3月1日付で、当連結会計年度の中間業績予想の修正を行い、現状でもその基調は変わっておりません。しかしながら、機械製造販売事業では、売上高は前回修正から微増に止まったものの、経費の節減や原価の抑制に努め、更に官庁向け機械や修理の原価率を厳しく見過ぎていたことなどから、連結子会社も含め利益面で大きく改善しました。一方、化学工業製品販売事業では、売上高・売上総利益とも前回修正を上回りましたが、貸倒引当金の計上により経常利益では微増となりました。

以上の状況により、当社グループ全体の当中間期の売上高は、前回発表に対して2.0%増の24,127百万円、経常利益は同28.7%増の1,325百万円、中間純利益は同じく24.8%増の673百万円となる見込みです。

個別中間業績予想の修正については、連結中間業績予想と同じ理由によるものです。

2．通期業績予想の修正

(1) 平成19年10月期通期（平成18年11月1日～平成19年10月30日）連結業績予想

（単位：百万円）

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想（A）	48,000	2,400	1,300
今回修正予想（B）	51,500	2,500	1,330
増減額（B）－（A）	3,500	100	30
増減率（%）	7.3	4.2	2.3
（ご参考） 前期実績（C）	47,331	2,222	1,267
増減額（B）－（C）	4,168	277	62
増減率（%）	8.8	12.5	4.9

(2) 平成19年10月期通期（平成18年11月1日～平成19年10月30日）個別業績予想

（単位：百万円）

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想（A）	43,800	2,100	1,100
今回修正予想（B）	46,400	2,100	1,100
増減額（B）－（A）	2,600	－	－
増減率（%）	5.9	－	－
（ご参考） 前期実績（C）	41,316	1,791	952
増減額（B）－（C）	5,083	308	147
増減率（%）	12.3	17.2	15.5

(3)修正の理由

下半期の業績は、化学工業製品販売事業は売上・利益とも堅調に推移する予定ですが、機械製造販売事業では売上高が若干伸びるものの、テレフタル酸製造プラント向けの大型物件の開発・製作に予想以上のコストを必要としていることや比較的原価率の高い物件が多いことなどから利益面で伸び悩む予想です。

以上のことから、当社グループ全体の平成19年10月期の売上高は、前回発表に対して7.3%増の51,500百万円、経常利益は同4.2%増の2,500百万円、当期純利益は同じく2.3%増の1,330百万円となる見込みです。

個別通期業績予想については、化学工業製品販売事業、機械製造販売事業とも連結業績と同様の傾向で推移し、売上高、売上総利益とも若干増加する予定ですが、貸倒引当金の計上で相殺され、経常利益、当期純利益は前回発表通りとなる見込みです。

以　上